



廃棄うどんからバイオマス燃料のエタノールを製造し、うどん店で燃料として使おうというプロジェクトが始まった。県内の産学官が連携し、うどんを核に循環型社会の実現を目指す香川ならではの取り組みだ。運営組織のうどんまるごと循環コンソーシアムの副会長を務めるさぬき麺業社長の香川政明氏(64)に取り組みの狙いや実用化への課題を聞いた。(報道部・頼富正郎)

ズームアップ

香川 政明氏

うどんまるごと循環コンソーシアム副会長

● 廃棄うどんからバイオ燃料

来年度末までに仕組み確立

プロジェクトの概要
香川副会長 うどん店で出る麺の切りくずや、ゆでて一定の時間がたった麺などを回収する。これらは従来、廃棄処分されてきたが、県内の産業機械メーカーが開発したプラントで発酵させてエタノールを作り、再度うどん店に戻し、麺をゆでるときの燃料として重油の代わりに使う。エタノールを生成した後の残りかす

で肥料を作り、うどんの原料の小麦や粟味の青ネギを栽培する構想もある。

―運営組織の構成は。香川 メンバーはうどん店、機械メーカー、環境NPOの代表のほか、学識経験者や行政関係者ら計14人。うどんの回収から運搬、燃料化まで一連の循環サイクルに携わる。障害者の職

業訓練を目的に、回収などの作業に福祉施設に参画してもらうことも検討している。

―目的は。香川 うどん店から出る廃棄物の有効活用だ。うどん店の廃棄物の大半が麺その全量を再利用することは不可能だが、ごみの減量化は図れる。讃岐うどんが環境に優しいというイメージアップにもなる。

―プロジェクトは県の補助金を受けている。香川 産学官が連携した事業として、2011、12年度に計580万円の補助を受ける。この補助金を使い、来年度末までに循環サイクルの仕組みを確立させ、実用化のめどを立てたい。

―今後取り組むことと。香川 うどんからエタノールを作る技術は確立されている。しかし、エタノールが現在の重油の代替燃料としての程度の効果があるのかは、実際の店舗で使ってみないと分からない。エタノールの代替性を確認した上で、必要なエタノールを確保するにはどの程度の量の廃棄うどんが必要かを検証し、実現性やコストを見極めなければならぬ。

―実用化へのハードルは高そうだ。香川 まずは循環システムを動かす組織が必要だ。組織が継続できるように、このシステムがビジネスとして成り立つ仕組みを考える必要がある。システムに賛同してくれるうどん店を広く募り、県内のうどん業界全体の取り組みとしたい。

香川 産学官が連携した事業として、2011、12年度に計580万円の補助を受ける。この補助金を使い、来年度末までに循環サイクルの仕組みを確立させ、実用化のめどを立てたい。

香川 メンバーはうどん店、機械メーカー、環境NPOの代表のほか、学識経験者や行政関係者ら計14人。うどんの回収から運搬、燃料化まで一連の循環サイクルに携わる。障害者の職

業訓練を目的に、回収などの作業に福祉施設に参画してもらうことも検討している。

―目的は。香川 うどん店から出る廃棄物の有効活用だ。うどん店の廃棄物の大半が麺その全量を再利用することは不可能だが、ごみの減量化は図れる。讃岐うどんが環境に優しいというイメージアップにもなる。

―プロジェクトは県の補助金を受けている。香川 産学官が連携した事業として、2011、12年度に計580万円の補助を受ける。この補助金を使い、来年度末までに循環サイクルの仕組みを確立させ、実用化のめどを立てたい。

―今後取り組むことと。香川 うどんからエタノールを作る技術は確立されている。しかし、エタノールが現在の重油の代替燃料としての程度の効果があるのかは、実際の店舗で使ってみないと分からない。エタノールの代替性を確認した上で、必要なエタノールを確保するにはどの程度の量の廃棄うどんが必要かを検証し、実現性やコストを見極めなければならぬ。

―実用化へのハードルは高そうだ。香川 まずは循環システムを動かす組織が必要だ。組織が継続できるように、このシステムがビジネスとして成り立つ仕組みを考える必要がある。システムに賛同してくれるうどん店を広く募り、県内のうどん業界全体の取り組みとしたい。

類型	24年 2月 1日	資料No.	
掲載紙	朝日 日経 (四国) 徳島 愛媛 高知	その他()	